

まず、先月の『プレイデイ』には、多くの皆様にご参加頂きましたこと、ありがとうございました。当日は前日の雨も上がり 神様に守られて、たくさんのお力添えとお祈りに支えられ、子ども達と共に無事 楽しい時を分かち合うことができました。お忙しい中で お寄せくださったアンケートを参考に 後日の職員会での振り返りでは、様々な反省点や課題点を挙げて 今後に生かせるよう 検討しました。特に朝早くからの役員のお父さま方のお動きは大きな助けとなり 全職員が皆 感謝でいっぱいでした。

さて、暦の上では『立冬』を迎え、気がつけば2024年も残すところ、ひと月半となりましたが 今年も20℃を超える日が 未だに続いています。地球温暖化が 年々 深刻さを増しているようです。目の前にいる子ども達、そして 遥か未来を生きていく新しい命のために、現代（いま）を歩む私達が 人としてしなければならないこと、守らなければならないものを しっかりと見極めていかなくてはと 自らの生き方、日々の在り方に まなざしを向けて 問い直しをすることが多くなってきたこの頃です。

11月の第4木曜日は収穫感謝祭（Thanksgiving Day）です。世界中のキリスト教会や関係施設で たくさんの収穫の恵みをくださった天の神様に、感謝を表す礼拝やイベントが 毎年 行われています。

『1620年の秋、イギリスから『メイフラワー号』という船に乗った清教徒（ピューリタン）が 信仰の自由を求めて アメリカ大陸へ渡りました。けれども、そこは今までに経験したことのない 荒れ果てた土地でした。その上 自分達がいるところが どこだかまるでわからず、不安と恐怖で 清教徒たちは皆 疲れ果て、日に日に心身が衰弱していきました。漂着した時の喜びや希望は失せ、病気で亡くなる者達が 相次ぐような過酷な状況に陥り、なす術もなくなり 絶望の中にいました。けれども、その様子を先住民（インディアン）が遠くからずっと心配しながら見守っていました。彼らは、この土地で育てたものを たくさん分けてくれましたが、それだけではなく この土地に適した穀物や野菜の育て方、収穫の方法、食べ方などの 生き抜くために必要な“自然との関わり”について、大切なルールを教えてくれました。そのおかげで 翌年には、驚くばかりの収穫があり、初めて目の当りにした清教徒達は 驚きと喜びでいっぱいでした。そして ずっと助け導いてくれた 先住民の温かな心に感謝すると共に、多くの実りをくださった神様にありがとうの心を献げました。』

この清教徒と先住民による“世界で初めて神様へささげた 収穫感謝礼拝”の出来事を記念した行事です。いつの時代も、私達は神様からすべてを与えられて生かされているその愛を忘れないように 礼拝という形にして、毎年 行われています。つのぶえ保育園も、22日（金）に『感謝祭礼拝』を予定しています。聖書の中の最初の書『創世記』には、神様がこの地上の世界を創造された時の出来事が記されています。暗い闇の中に在った世界で「光よ あれ！」という神様の第一声から始まった天地創造の御業は 6日に亘りました。命あるもの ないものすべて一つ一つを 神様は“ことば”によって創られました。そしてそれを終える毎に“よし”とされました。この世界は、きっと神様の愛の御手によって丁寧に細やかにつくられたかけがえのないものだと感じます。この貴い世界のすべてのものを 神様と同じように愛しみ大切に管理してくれる存在が必要だと考え、神様は最後の被造物を創られました。それが 私達人間です。

毎年の全体礼拝の第1回目に この出来事を子ども達に語りますが、その度に 私の心を突き刺すのは “人のために世界が在るのではない。世界のために人は後から創られた”という神様の御業の順番です。この順番に大きな意味があり、この順番こそが 神様からの重要なメッセージなのだと痛感させられます。そして人としての分際気づかされ、決して間違えてはならない 勘違いしてはならないと思わされます。

人が 自分の欲や利益、都合や勝手や感情で、環境を壊すことはできない。命を奪うことは赦されない。自然の営みを変えることも狂わすこともしてはならない。それらの権利が、人にはないのだから。人は 世界を守る責任と義務をもっていること。すべてのものを大切に管理し世話をする使命があること。人は そのために生かされていること。すべての被造物へ愛を注ぐべき存在であること。それをするため、神様は 人にのみ、想いやる“心”を与えられていること。

つのぶえ保育園の子ども達には、これまでずっと、繰り返し 繰り返し、祈りを込めて伝えてきました。これからもずっと 変わることなく、繰り返し 繰り返し、祈りを込めて伝えていきたいと思っています。感謝祭、そしてまもなく訪れるクリスマスを前に、自らの心と静かに向き合い 神様の御心に想いを馳せ、愛する子ども達一人ひとりの小さな心を大切に尽くしていきたいと、祈りを新たにしました。（石田 記）

「知れ。主こそ神。主が、私たちを 造られた。私たちは 主のもの。（詩篇 100：3）」